

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690400037		
法人名	社会福祉法人 柘野福祉会		
事業所名	グループホーム四条大宮		
所在地	京都市下京区大宮通綾小路下る綾大宮町52番地		
自己評価作成日	平成23年7月16日	評価結果市町村受理日	平成23年11月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>今までの生活を尊重した上で個性を理解し、各利用者に合った支援の実践に力を入れている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690400037&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690400037&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成 23年 8月 24日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当該ホームは有料老人ホームが併設され、納涼祭や避難訓練などを合同で行い、互いに交流をしながら協力体制を築いています。利用者が地域と繋がりながら生活が充実することを大切に、日々の買い物や利用者の希望に応じて積極的に地域に出かけています。また、職員会議を全職員が参加できるよう夜間に開催し、職員間の情報の共有に努め支援の充実を図っています。近隣に交流できる家屋が少ない中、運営推進会議には自治連合会長や町会長などの参加を得て、地域からの意見や要望を聞く機会となっており、参加者に要介護度に付いて説明するなど有意義な会議となるよう取り組んでいます。恵まれたハード面や法人が持つ豊富なノウハウを生かしながら全職員が利用者の思いを実現し、利用者の生活がより充実したものとなるよう取り組んでいます。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症があっても慣れ親しんだ地域の中で誇りを持って暮していただけますように」の理念を職員間で共有し、日常のケア、地域の中でよりよく生活していただけるよう、支援している	理念に基づき、利用者がこれまでと同じように地域と繋がりながら暮らせるよう地域との関りを大切に支援に取り組んでいます。利用者へのサービスがホーム内に留まる事が無いよう振り返りながら利用者と共に積極的に地域へ出かけるよう心掛けています。今後ホームとしての特色を踏まえた方針を決めたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し回覧の情報を収集し、地域行事に参加している。	地域の保育園の行事に参加したり、地域の地蔵盆などへ出かけています。併設の有料老人ホームと合同で納涼会を開催し、案内を回覧して地域の方の参加を呼び掛けたり、また、地域の方がレクリエーションの為にホームを訪れるなど交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習の受講し、今後地域の方へ認知症の方への理解や支援方法を発信し、地域との交流を図っていききたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している運営推進会議での利用者、家族の声を職員会議で報告し、反省、改善に努めている	運営推進会議は家族代表や自治連合会会長、町会長、地域包括支援センター職員などの参加の基に開催しています。行事報告を行い、参加者からはアドバイスや情報を得て、外出行事に取り入れるなど運営に反映させています。議事録は誰もが見られるよう掲示しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス協議会、下京グループホーム連絡会に参加し、他施設の取り組みやサービス内容等について意見交換を行っている	担当者とは法人の窓口や地域包括支援センターを通して連携を図っていますが、制度について等分からない事があれば直接出向いたり、電話などで相談を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用研修の際にグループホーム四条大宮のマニュアルの説明を行い、年に一度事業所内研修(勉強会)を実施予定	採用時研修や内部研修を行い、職員が身体拘束の弊害について十分理解できるよう取り組んでいます。玄関の施錠については、入居時に安全確保の為に施錠を行っていることを家族に伝え同意を得ています。外出願望がある方や外出希望者にはできる限り付き添って出かけられるように努め、自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員採用研修の際にグループホーム四条大宮のマニュアルの説明を行い、年に一度事業所内研修(勉強会)を実施予定		

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書、入居の手引きについての説明を十分に行い、納得していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者の声を聴き、意見箱を設置していることについても本人、家族に説明している	家族の来訪時や運営推進会議の際など、日ごろから利用者や家族から意見や要望を聞くように努めています。食事の内容について要望が出された際は、速やかに職員会議で話し合い、メニューに反映させていますが、その対応結果については報告できていないのが現状です。	意見や提案を出された家族へはその対応結果を報告されることが望まれます。また、他の利用者さんにも共通する意見の対応結果については、共通認識できるようにされてはいいでしょうか
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ノートを使って意見交換をしたり、職員会議を出来る限り全職員の集まれる時間に設定し意見を出しやすい環境を作っている	毎月の職員会議の際や年2回個人面談を実施するなど、職員からの意見を聞く機会を設けています。出された意見や提案は職員間で検討を行い、記録方法の改善や職員間の調整、マニュアルの改訂など業務改善へ繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月一回行っている、定例会議の時や日常業務の中で随時話し合い、迅速な対応を心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画の実施や法人内研修への参加、外部研修に積極的に参加できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流や他施設との交流に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全利用者にセンター方式を導入し、本人の要望を聞き取っている。言いづらい事もあると思われるので言動に注意し、その都度個別に声を掛けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を作成する中で担当職員がこまめに連絡をとったり、日常の様子を報告している。その際は家族様の健康状態等も伺うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問美容も依頼しているが、施設内だけでなく、希望時には外の美容室を利用したり、付き添いが難しい家族様に代わって通院の対応、また習い事が継続できるように環境を整えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できることは自分で、難しい事はお手伝いします」と共に調理したり掃除を行い、負担なくできることを日々模索し、得意なことについては教えて頂く姿勢を持って、やりがいを見つけられるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望時には家に電話をして話をする時間を設けたり、面会に来やすいように日頃から連絡を取っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りがある方には継続できるように返信したり、馴染みの場所に1か月に一度行けるように計画を立てている。	職員と一緒に実家を見に行き近所を散策したり、行きつけの店に饅頭を買いに行き、近所の方と喫茶店に行かれるなど希望に応じて外出の支援を行っています。また、入居前からの先生に来て貰い詩吟を継続されている方など、それぞれの方の関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時職員が間に入り、話題の提供や誤解のないように関係の調整を心がけている。体の調子や相性を見極め利用者のみで交流できる機会も作っている		

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当者なし		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは本人が充実していなければ共同生活は難しいと理解し、毎日の言動を記録に詳細に記入し、一か月ごとに担当者がまとめ、ケース会議を開催、本人の立場に立って今何が必要かの検討を行っている	入居前はセンター方式を用いて家族に過去の生活歴などを記入して貰い、多くの情報を得ています。入居後は担当職員を決め、日々の会話や表情など様々な情報を記録に残してケース会議で全職員で話し合い、利用者の思いが汲み取れるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から教えていただいたり、ご本人とのコミュニケーションの中から情報収集しセンター方式を作成し、全職員が閲覧できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フォーカスチャーチングの形式を用いた毎日の24時間単位でのケース記録の記入をすることで、習慣や好み、できることの把握を行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を作成して本人、家族、職員、看護師とニーズを検索し介護計画を作成している	入居時は暫定プランを作成し、約1ヶ月後にセンター方式を参考にしながら本人や家族の参加を得てサービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。担当者が毎月モニタリングを行いケース会議で変更の必要性について全職員で話し合っています。また、3ヶ月毎に評価を行い見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況、身体的変化、精神的変化を月単位で更新し、ケース会議で職員のアイデアを収集、変更する際は家族に相談した上で実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	テレビ等をきっかけに本人から好みや情報を収集し、希望のあった献立、外出先、余暇等を必ず取り入れられるようにしている		

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる演奏会等の余暇支援の実施や地域行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族に要望を伺い、かかりつけ医を決めて頂き、必要時にはその専門の通院支援も行っている	かかりつけ医の継続が可能であることを伝え、希望によって協力医に変更される方もあります。2週間に1回協力医による往診や週1回法人看護師による健康管理を行っています。希望による歯科の往診や訪問マッサージにも対応しています。何かあれば法人の看護師に相談したり、緊急時は個々のかかりつけ医に指示を仰いでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡のノートを使用して情報交換し、二週間に1回の往診前には二週間起こった変化について検討、往診時一緒に各居室に訪問して確認している。緊急時は電話などで報告し指示を仰ぐ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報の提供を行い、入院中は面会を出来る限りで行き職員の写真を持っていく等環境が変化しても話題が提供できるように支援している。退院前は医療機関、家族との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りにかかる当施設での対応指針を説明し本人、家族の現状での重度化及び看取り期の意向について確認している	入居の際に利用者、家族に終末期についての意向を確認しています。医療や家族の協力などの連携体制が整えば対応していきたいと考えています。職員にもホームの終末期の指針について伝え方向性を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時や年に1回の研修の実施。その他AEDの勉強会も実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、研修を実施している	年2回消防署の指導の下、併設の有料老人ホームと合同で避難訓練を実施しています。訓練については、運営推進会議でも議題にして話し合ったり訓練実施の際には近隣に声掛けを行っています。また、夜間については併設の施設と協力し合える体制を整えています。	

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが、できていない時もあり、その都度当たり前にならないように指導している。年に一回全職員に対して内部研修の実施予定	法人内の3グループホームが合同で研修を行い、接遇についてそれぞれのホームに足りない所などを学び合っています。言葉使いがなれなれしくなったり、不適切な対応が見られた場合はその都度声掛けをして注意すると共に、利用者を尊重した対応について振り返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表して頂くことも多く、可能な限り対応しているものの、全ての要望に応えかねているのが現状である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り要望に応じているが、できない場合は納得して頂けるように事情を説明し、できる範囲の中で楽しめるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の見だしなみに加えて、欲しいものが購入できるように一緒に買い物に出掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けの好みを理解し、好きなものがバランスよく提供できるように要望を取り入れた献立表の作成をしたり、餃子等皆で楽しみながら調理ができるように支援している	利用者の希望でカレーの日を増やすなど希望を取り入れた献立をたて、食材の買い出しに利用者と一緒に出掛けています。調理好きな利用者が率先して調理をしたり、野菜切りや下膳などを行う方もおり、出来る事に関わっています。職員も利用者と談笑しながら食事を摂ったり、また、行事で出かけた際には外食するなど食事が楽しみとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏季の間のみ入浴前後にはスポーツドリンクの提供。入居時水分チェック表をつけて状況を確認した上で少ない方には声掛けを行う。夜間も各部屋に常備できるように配茶している。体重を月に1回測定し健康管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、付き添い介助を行う。歯科往診を活用して歯科医からの指導も仰いでいる		

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時は排泄チェック表を活用し、失禁、失便の原因を検討した上で対応している。できる限り布パンツを使用し、必要時のみハビリパンツを使用するように声掛けしている	殆どの方が布パンツを着用し排泄が自立されていますが、夜間のみ安心の為に紙パンツを利用される方など個々の方に合わせて対応しています。声掛けが必要な方や頻りにトイレへ通われる方が時間を忘れて失敗することが無いよう、個々のタイミングに合わせて声掛けを行い、気持ちよく過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時にすこやか体操、昼食前は口腔体操を実施している。便秘の予防として希望者のみ毎朝牛乳提供をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り要望を聞き、曜日は固定で設定、時間についてはその日の本人のタイミングで入浴している	入浴時間は概ね午後からとなっていますが、午前中など利用者の希望の時間に応じて柔軟に入って貰っています。拒否がみられる方には馴染みの職員が声掛けを行うなど工夫しながら支援しています。好みのボディークリームやシャンプーを使用される方もあり、気持ちよく入って貰えるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できる限り活動的に過ごして頂き、夜間安眠できるように環境を整えている。体調に応じて昼寝の声掛けをおこなう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに既往歴、薬剤一覧表を作成し、服薬支援の際はチェックしている。副作用等については医療ファイルに綴り、閲覧できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの情報収集し、個々の趣向に合わせて余暇活動として支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物時に希望を伺い外出。その際興味のある場所まで足をのびし散歩している。その他毎月一度は外出行事を実施している	日々の買い物で三条商店街へ出かけたり、近くの神社へ散歩に出かけています。行事として嵐山や花見、利用者と八つ橋作りの体験に出かけるなどしています。定期的に家族と実家に帰る方や百貨店に買い物に出かけるなど、個別の希望に応じて様々な外出の機会を持っています。	

グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安であったり、好きなものを自分で買いたいと要望される方には高額にならない範囲で使用して頂けるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って頂いたり、施設の電話を3分10円で利用して頂きご家族友人との連絡が気軽におこなえるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けて頂いたり、毎月既設に応じた作品を作成して頂き見える所に掲示している。	玄関スペースやリビングには季節を感じられる生花を活けたり、手作りの暖簾やカレンダーを掛け、暖かく家庭的な雰囲気となるよう工夫しています。利用者同士が穏やかに過ごせるようテーブルの配置を工夫したり、また、広く長い廊下では、リハビリを兼ねて歩行する方がいたり、椅子やマッサージチェアが置かれ一人で寛ぐ場として利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の固定はしていないが、気の合う利用者同士と一緒に座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っておられた馴染みの家具を持ち込んで頂き、必要に応じて本人と相談して模様替えを行っている	利用者は居室に好みのカーペットを敷いたり、自由にテレビやダンス、テーブルなどを持ち込まれています。家族の写真や携帯電話、また、位牌を置かれ、ご飯を供える事を日課とされる方など、個々の利用者が安心して過ごして貰えるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走しても安全なように段差をなくし、各部屋には表札をつけている		